
今日の日

2025年10月20日～10月26日

翻訳 伊藤 若菜

編集 相川 忠義

この冊子の聖句は新改訳聖書第三版を使用しています
※翻訳・編集以外でも協力して下さっている兄弟姉妹がいます

御茶の水キリストの教会

10月20日(月)

何 度 ま で 赦 す べ き ？

聖書朗読 マタイ 18:21～35

互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。

コロサイ 3:13

(アメリカの)カレンダーによると10月26日は「赦しの日」だそうです。私はこのような「〇〇の日」という記念日が好きなのですが、「赦しの日」を前にして、私は考えさせられました。研究によれば、怒り、恨み、復讐心は高血圧、脳卒中、心臓発作などの要因になり得るそうです。また、誰かを赦せずにいる時、私たちは自分自身が牢獄に居るかのように感じる時もあるでしょう。

ペテロは、自分にひどいことをした人を何回赦すべきなのだろうと思い、主イエスに質問しました。私たちも同じような疑問を持つことがあります。イエス様は、無慈悲なしもべのたとえ話を用いて、ペテロにその答えを教えてくださいました(本日の聖書朗読箇所)。イエス様は、赦しがどんなに尊いものであるのかを、私たちに知って欲しかったのだと思います。詩篇103篇12節には「東が西から遠く離れているように主は私たちの背きの罪を私たちから遠く離される」とありますが、このように、神様は私たちを赦して下さいっており、私たちも他者を赦す者になることが期待されているのです。

イエス様は弟子たちに、弟子たちも「赦す者」となれるよう祈りなさい、と教えられました(主の祈り)。「赦す」ことは、(私たちを怒らせた人ではなく)私たちに求められていることです。私たちが他人を赦した回数を数える前に、まず神様が私たちを赦して下さいました回数を数えましょう。

讚美歌 511 みゆるしあらずば

祈り 親愛なる主よ、私が寛容な精神を持つことができるようにお導き下さい。イエス様の御名によりお祈りいたします。アーメン。

ニューメキシコ州ポートルス / ゲーネル・トーマス

10月21日（火）

記念として語り継がれる奉仕

聖書朗読 マタイ 26:6～13

まことに、あなたがたに告げます。世界中のどこでも、この福音が宣べ伝えられる所なら、この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう。」

マタイ 26:13

イエス様は高価な香水の贈り物を受け入れ、それをご自身の頭に注いだ女性の行為（奉仕）を、いつまでも語り継がれる記念とされました。

この聖句を読むと私は、私に尊い贈り物をして下さったある女性のことを思い出します。彼女は韓国人のクリスチャンで、とても料理が得意な方でした。家族の誕生日を迎える度に、彼女は特別な調味料を持って来て台所にある食材を使って私たちのために特別な料理を作ってくれました。

私たちが韓国を去ることになった時、彼女は最後の食事で私たちをもてなすために自身の家に招待してくれました。訪ねたところ韓服を着て、長い髪をスカーフで覆い、小さな家の玄関で私たちを出迎えてくれました。食事はまるで王様に捧げるのに相応しい豪華なものでした。あまりにも豪華でしたので、私はその食事のために彼女が一体いくら支払ったのだろうと心配になってしまいました。彼女はその食事の費用で、一ヶ月間家族を養うことができただろうと思います。彼女はどうやってその費用を工面したのでしょうか？

私たちが帰る際、彼女がお辞儀をした際に頭からスカーフが落ちました。その時に彼女は私たちの食事代のために自身の髪を売ったことに気が付きました。私は彼女の行為を忘れることはありませんし、その行動を心から称えます。

讚美歌 391 ナルドのつばならねど

祈り 親愛なる神様、私の人生が、あなたが記念して下さるような捧げものとなりますように。イエス様の御名によってお祈りいたします。 アーメン。

テキサス州オースティン / ジョイス・ハーディン

10月22日（水）

御子を通して御業を成し遂げられた神様

聖書朗読 マタイ 27:27～44

神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方であって、神の義となるためです。 II コリント 5:21

本日の聖書朗読箇所（真の王である）イエス様は、あざけられ、打たれました。兵士たちは、イエス様を侮辱し、クレネ人シモンにイエス様の十字架を無理やり担がせました。一緒に十字架に付けられた二人の犯罪人もイエス様をののしりました。道を行く人々や祭司長、律法学者、サンヘドリンの長老たちもイエス様を侮辱しました。この時、イエス様は本当に孤独で、イエス様の友人も親戚も弟子たちも誰一人としてイエス様を助けようとしなかったように見えます。父なる神様さえ、そこにはおられなかったように感じられます。この時イエス様は、完全に見捨てられ、あざけられていたように感じられます。

しかし、このような最悪とも思われるような出来事の只中にも、神様はおられ、御子イエス様と共に居られました。間もなくして地が揺れ動きましたが、それはイエス様の十字架という恐ろしい出来事を通して、神様が働いておられたことを指し示していると言えるでしょう。その時父なる神様は、イエス様と共に苦しんでおられたのです。そして、この十字架の出来事を通して、私たちの救いが成し遂げられたのです。

すべての罪がキリストの上に置かれ

キリストの死によって私は生きる

(ゲッティ／タウンゼント)

教会福音讚美歌 359 私の望みは主イエスだけにある

祈り 聖なるお父様、あなたの愛と慈しみを示している十字架に、私たちがいつも目を向けることができるよう、お導き下さい。キリストを通して。 アーメン。

カリフォルニア州カマリロ / ロナルド・L・タイラー

10月23日（木）

恐れるな

聖書朗読 マタイ 28:5～20

御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。 ルカ 2:10

夫と私は、聖書を深く学び、地元をはじめ世界各地で宣教活動を行うための準備をするグループに参加しました。ですが、時々私たちは恐れを感じます。

恐れを感じる時、私たちは、本日の聖書朗読箇所を思い起こします。「恐れてはいけません・・・急いで行って、お弟子たちにこのことを伝えなさい」。女性たちはその通りにしました。すると主ご自身が出迎えて、「喜びなさい」と言われ、「弟子たちに告げなさい」と言われました。そしてイエス様は、いわゆる大宣教命令を弟子たちにお与えになりました。「行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい」。イエス様の復活後、事態は急速に動いていたことがわかります。それは、人々が愛、感謝、そして大きな喜びにあふれていたからです。

私たちが宣教へと立ち上がらせる原動力は何でしょうか？ 本日の聖書箇所の人々と同じように、愛、感謝、そして大きな喜びではないでしょうか。逆に私たちが立ち止まらせてしまうものは何でしょうか？ それは、恐れです。聖書には、恐れについて触れている箇所が 365 か所あるそうです。つまり一年中毎日異なった恐れに関する聖句を読むことが出来るのです。「恐れるな」という言葉は、何度も何度も私たちの心に勇気を与えてくれます。私たちは宣教したいと思っても恐れてしまう時があります。しかし愛と神様への信頼によって、恐れを乗り越えることが出来ます。「愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します」(I ヨハネ 4:18)。神様の愛によって押し出され、神様と共に前進しましょう。そして、神様もいつも共に居て下さいます。

讃美歌 502 いともかしこしイエスのめぐみ

祈り 聖なるお父様、私たちの心を、信仰と感謝で満たし、私たちが宣教へと送り出してください。私たちの恐れを、あなたへの愛へと変えてください。御名によって祈ります。アーメン。

コロラド州プエブロ / キャロル・ロード

10月24日（金）

興味深い木

聖書朗読 マルコ 5:35～43

イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。 ヨハネ 11:25

旅行中にあるお城の中庭で興味深い木を見かけました。お城も街の風景も本当に美しいのですが、この木が特に目に留まりました。恐らく専門の造園家にとっては目障りな存在なのではないかと思われます。地上から見ると、元の幹と枝の半分しかありません。まるで雷が落ちて上から下まで割れて、片方が蒸発してしまったかのように見えます。芯も空洞になっています。

しかし、この木には特別な一面がありました。そんな枯れているように見える木ですが、よく見ると小さな小枝が何十本も生えていて、そのどれもが若葉を茂らせているのです。一見、死んでいるように見えますが、実は生きていて新たな生命を育てているのです。

ヤイロの家で、幼い娘が横たわっているのを見て、イエス様は「その子は死んだものではありません。眠っているのです」と言われました。その際、人々はイエス様をあざ笑いましたが、イエス様はその娘の手を取り起き上がるよう言われました。

私たちは、試練と直面した時、置かれた状況をどう見るのでしょうか。たとえ失望感が心を襲い希望が無くなりかけたとしても、イエス様がもたらす希望があることを忘れてはいけません。イエス様が「起きなさい」と言われる時、私たちは再び立ち上がる事が出来るのです。私たちはどんな時でも希望を失ってはいけません！ 主はいつも私たちと共におられ、私たちには見えないところでいつも働いて下さっているのです。

讃美歌 270 信仰こそ旅路をみちびく杖

祈り お父様、あなたの目で私の周りの世界を見ることができるようになってください。人間の目で絶望と死を見るのではなく、あなたのうちに希望と命を見ることができるようになってください。イエス様の御名によって。アーメン。

テキサス州アビリーン / ナンシー・ベイカー

10月25日（土）

弟子たちの反応

聖書朗読 マルコ 6:45～52

イエスは彼らに言われた。「どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことです。」
マルコ 4:40

もし私たちがペテロ、ヤコブ、その他の人々のように、イエス様の傍で生活し実際にイエス様の奇蹟を目の当たりにしていたら、揺るぎない信仰を持つことは簡単だろうと思うことはありませんか。しかし、イエス様に最も近かった人々の話を読むと、彼らが当惑し、怯え、目撃した奇蹟の本当の意味を理解していないことが多いことに気が付かされます。

本日の聖書朗読箇所では、弟子たちはイエス様が水の上を歩かれるのを見て怯えています。彼らは、ほんの数時間前に、主イエスが五千人を養うために食物を増やされる奇蹟を起こされたことを忘れていたのです。彼らの心は、十分に開かれておらず、奇蹟の意味を受け入れることが出来なかったのです。

私たちは、（よく考えてみたら、驚くべき）不思議な出来事を日々目撃しています。考えてみてください。種と土からは小麦が育つのです。傷はいつしか癒えます。赦しによって人間関係が修復されます。悲しみの後に慰めが訪れます。愛と慈しみのありがたみは、最も過酷な状況の中でこそ実感するものです。

心の目が閉じてしまっていた弟子たちのようではなく、私たちは、生活の中にある神の働きに、信仰の目を通して気づき、神様に感謝するようにしましょう。

讃美歌 II 編 161 輝く日を仰ぐとき

祈り 私たちの神様、あなたの御業を見るために私たちの目を開いてください。私たちが感謝の心をもってあなたのもとに行けるようお導き下さい。イエスの御名によって。 アーメン。

コロラド州デンバー / キャロライン・ハンター

10月26日（日）

救われた私

聖書朗読 マルコ 7:14～23

また言われた。「人から出るもの、これが、人を汚すのです。」
マルコ 7:20

成績優秀者リスト、決勝参加チームリスト、最終選考者——これらは幸せなリストです。本日の聖書朗読箇所にもリストがあります（しかしこれは良いリストではありませんでした）。ビックリして、もう一度今度はゆっくり読んでみました。ああ、何とやることでしょうか！ このリストでは、私に当てはまる罪がいくつも挙げられています。このリストは、まさに私の心そして私の自分勝手な思いを表しており、イエス様もそんな私の心を指摘しておられるように思いました。

罪の問題は、創世記3章のエバから始まりました。エバは、神様が与えてくださった恵みを十分ではないと思い、与えられた以上のものを求めました。食欲になり、自分勝手に行動し、こうして罪がこの世に入り込みました。確かに、私もそうです。食欲なエバのようです。そして私自身の「食欲」という罪がマルコ7章に記されているのです。

私は自分の罪深さに気付かされます。誰がこの罪のリストから私を解放してくれることができるのでしょうか？ 御名を讃えましょう！ なぜなら、イエス様は絶えず私をきよめ、食欲で罪深い私を救い出して下さいます！ 私たちの罪のために十字架に架かって下さったイエス様に感謝します。

私は悔い改めの思いと喜びをもって、主の足元にひれ伏します。主が私の心を変えてくださるよう願い、救われた人々のリストに今私の名前が書かれていることを感謝し、御名を讃美します。

讃美歌 II 編 167 われをもすくいし

祈り 神様、御子であるイエス様を私たちの罪のために遣わして下さったことに感謝します。御子によって、御子のゆえに、私は祈ります。アーメン。

テキサス州ビクトリア / ダナ・メレネス